

2007年第3回定例会レポート

近藤区議が高齢者施策について一般質問

すべての高齢者が安心して新宿で住み続けられるために
孤独死対策、安否確認の体制を強化して！



9月21日、区長に本会議で質問する近藤区議。約10分の質問ですが、2、3回に分けてレポートします。

◆高齢者の孤独死を発生させないための取り組みについて

●新宿の状況は…

9月8日付けの週刊誌「東洋経済」では「小さなふるさと福祖国」老後不安大国」という特集が組まれ、広告には「新宿区では3日に1人が孤独死」などショッキングな見出しがとおっていた。実際、新宿区が把握している孤独死は、人口動態統計等のデータにより年間百人程度と推測され、生活福祉課では、ここ数年60人から70人程度年間あり、そのうち約3分の2が高齢者だ。2百世帯ぐらいのあの町会では、今年の7、8月に3

人も、いわゆる孤独死をしている。対策を打つべき対象者の拡大を！新宿区が昨年9月より全庁をあげ「孤独死防止対策連絡会議」を立ち上げ、対応しようとしている対象者は、「2週間」と程度に見守る者がいない、独居または高齢者のみ世帯の高齢者」となっているが、一般的な「孤独死」の定義とは違う。

が多いことも特徴だ。高齢者のみ世帯の多い新宿では、高齢者に絞って対策を考えるにしても、先の定義では実態にあわず、必要な対策が導き出せない。対象者については再検討し、拡大すべき。

医療機関の全国組織である「全日本医連」が今年3月15日に発表した「孤独死実態調査」の報告では、孤独死が起きやすい環境として、高齢者（特に後期高齢者）、

【健康部長からの答弁】
区は昨年度から孤独死防止対策連絡会議を設置するなど孤独死防止対策の検討を進めてきた。孤独死と言っても、公的な定義があるわけではなく、検討会で様々な意見が交わされた中で、先の対象者とした。

独身男性（配偶者の死別を要）、親族が近くに任んでいない、定年退職又は失業により職業をもたない、慢性疾患をもつ、アパートなどの賃貸住宅（隣家に無関心）などが上げられ、低所得者や生活保護世帯



【指摘の点については、今年度、開催予定のシンポジウムでは高齢者に限らず対象者を広げて議論する予定。国を含め、孤独死防止対策はまだ端緒にいたばかりであり、対象者についてもさらに検討を進めていきたい。



毎日「福祉電話」等で安否確認できるといいのにネ

高齢者の安否確認の強化を！

1つ目の対策として、社会的孤立、地域からの孤立を最小限にし、高齢者の異変にいち早く対応するために、あらゆるツールを活用することである。

96年に廃止された「福祉電話」は、近隣に親族等がいない、かつ地域との交流に乏しい65歳以上の

送信するサービス「みまもーる」などライフラインを活用した安否確認が広がっている。送信する家族のいる方への周知はもちろん、身寄りのいない高齢者については区が責任をもって対応する必要がある。早期発見につながるべき。

【健康部長からの答弁】

「福祉電話」事業の復活については、一人暮らし高齢者への情報紙の訪問配布事業、生活保護世帯を対象とした高齢者単身生活見守り事業、ごみの訪問収集等、新たな見守りの仕組みに全庁挙げて取り組んでおり、現状では復活は考えていない。水道やガスなどのライフラインを活用した見守り事情などについては、高齢者相談の窓口を通じてきめ細かく周知活動を行っていく。

子どもも高齢者も輝く新宿に

こんにちは

日本共産党新宿区議会議員

近藤なつ子



No.107 2007.10.14 発行：日本共産党新宿区議団
区議団控室：Tel.5273-3551、Fax3200-1474
：Tel. 090-4849-3227、Fax3200-5163
e-mail：natsuko_kon86@muf.biglobe.ne.jp
ホームページは「近藤なつ子」と検索してください。

また今年度から東京都水道局が試験実施している、ひとり暮らしの親の水道メーターに通信機能をつけ、その使用状況をメールで家族に送信する「見守りサービス」や、東京ガスもガスメーターの使用状況を家族にメール

区の答弁では不十分な点が多く納得できません。さらに、区民のみならずと取り組みを強めていきたいと思います。

近藤なつ子

近藤なつ子事務所の

くらし・法律相談

11月13日、12月11日(火) 午後7時～8時

ところ 近藤なつ子事務所

お問合せは：Tel 090-4849-3227[携帯]

または 5273-3551[区議団控室]

※事前に必ずご予約ください。
その他、お急ぎのときはお気軽にご相談ください。

無料

裏面には、現在区民のみなさんにご協力いただいています「07区政アンケート」の中間報告の1部を掲載しています。どうぞ、ご覧ください。



2007区政アンケートへのご協力ありがとうございます

9月12日から配布しはじめた、日本共産党新宿区議団のアンケートは10月12日現在**1703通**の返信がありました。昨年を上回るテンポで、区民のみなさんの切実な要望、意見が寄せられています。

若い時は、病気もせずほとんど健康保険を使わなかった(納めるばかり)。年を取り体が弱っていざ保険を使おうとすると、保険料、医療費が高く世間の風当たりも強く、納得いかない。(60代、女性)

高齢者いじめとしか考えられない。「出来るだけ早く死ね!!」という制度としか考えられない。(70代、男性)

年金額が少ないのにひどすぎる。(60代、女性)

保険料の使い方を正しくしてください。(50代)

高齢になる程天引きされるんですね。入ってくるお金も少ないのに、元気な人はやっぱり高いと思ってしまおうですね。(60代、女性)

何時の間に決まったのか、知らないうちに決定というのはおかしい。もっと公聴会とか議論とかしてほしい。(70代、女性)

高齢者は、長い間、高い税金、保険料を払い続けているのに、さらに年金から取るのはひどい話だ。(50代、女性)

「後期高齢者医療制度」についての自由意見を寄せられた声をご紹介します。

年金生活では、月に1万円は大変です。他に医療費がかからなければ良いが、毎月薬と医者代で苦しいです。夫に死なれ、子どもは独立し、1人で何のための一生かと思えます。(60代、女性)

年金といっても支給額はピンからキリまで。一律に引かれるのであれば問題だと思う。差をなくしてすべての加入者が年金だけで暮らせる水準まで持っていくのが先決だと思う。(50代、女性)



少ない年金の中からまた天引きがふえて、生活が益々苦しくなる。長生きすればする程生活が苦しくなる。貯金が目減りしてくる。(80代以上、女性)

今知ってビックリしています。(70代)

毎年少しずつですが年金が少なくなっているので、心細い思いです。(80代以上)

僅かな年金で生活している人たちは切捨てられるのでしょうか。全財政を見直して弱者対策を考えるべきだ。(70代)

保険料がもっと安くなるようにしてほしい。(70代、女性)

60通までの「ご意見・ご要望」です。順次ご紹介していきます。引き続きみなさんの切実な声をお寄せください!!

年金が少ないのに、ますます切り詰め生活となる。病気になるようにケチケチとほどほどと悩みます。(不明)

年金100円から納めてやっともらえるようになったのに、年金から取りっぱぐれないようにと天引きされ、何のために納めたのかわからない。これでは、若者は年金など納める気にならないと思う。(60代、女性)

今まで20年家族皆健康保険を使った事もないのに、年々値上げされ怒っている。この上少ない年金から6000円も勝手に取られて返してくれないなんて、年金が月34000円になってしまいます。(84才、女性)

「後期高齢者医療制度」について 【1094通のアンケート結果】

来年(2008年)の4月から、75歳以上の方は都道府県ごとにつくる後期高齢者医療制度に原則加入することになり、年金から保険料を月額平均6000円(厚生労働省試算)天引きされることとなります。

- このことをご存知ですか? 1. 知っている **366**人(33.5%) 2. 知らない **636**人(58.1%)
- 年金からの天引きについてどう思いますか?
 1. 賛成 **129**人(11.8%)
 2. 反対 **697**人(63.7%)
 3. わからない **155**人(14.2%)
- 介護保険料と合わせると平均で月に1万円を超えと言われていますが、どう思いますか?
 1. 高い **882**人(80.6%)
 2. 適切 **40**人(3.7%)
 3. 安い **3**人(0.3%)
 4. わからない **65**人(5.9%)

「高齢者に負担と差別医療を強いる2008年4月実施の後期高齢者医療制度の中止・撤回を求める請願」署名にもご協力お願いします